

## 「延岡総合文化センター施設長寿命化計画（案）」に関する意見募集の結果について

No	意見の概要	本市の考え方
1	人口減少の中、現施設の内容のまま改修を行っても、利用者増に繋がらないので、この機に、大ホールと美術館機能のホールのみにして、展覧会などの誘致を図り、関係人口を増やせる施設に改修するのはいかがか。	<p>●施設利用状況において、10年前と比較すると新型コロナウイルスの影響で一時期は全体的な利用者数は減少していましたが、昨今においては回復傾向となっております。</p> <p>また、大ホールのみならず、小ホール、展示室や各種会議室のいずれも利用ニーズは高い状況にあり、令和4年に改訂した「延岡市公共施設維持管理計画」においても長寿命化工事を行い延命化を図る方針が示されているため、当面は現状の機能を維持したいと考えております。</p> <p>なお、美術館機能は延岡城・内藤記念博物館に整備しており、令和5年2月には絵画展の開催実績もあります。今後も利用者ニーズの変化を注視しながら施設の整備や適正な維持管理を行ってまいります。</p>
2	若者が離れていかない街づくりの為に、娯楽施設や映画館を併設してはどうか。	<p>●本施設は県北の芸術・文化振興の拠点施設として、長年市民の皆様にご利用されており、周辺にはヘルストピア延岡や、若者の提言をきっかけに整備されることとなったアーバンスポーツパークが近日オープンし、ファミリー層から若者まで楽しめる施設が整備されています。</p> <p>また、延岡城・内藤記念博物館で幅広い年齢層が楽しめる特別展を開催しており、野口遵記念館での各種イベントとまちなかの商店街などを周遊するとプレゼントがもらえる企画など、市全体で市民の皆様が楽しめるまちづくりに取り組んでおります。</p> <p>なお、現在建設中の新宮崎県体育館（アスリートタウン延岡アリーナ）は県内最大規模、九州の太平洋側でも最大級の体育館ですが、完成後はスポーツだけでなくコンサートなどの会場としても利用できるため、そこでの若者向けイベントなども期待できます。</p> <p>これからも、市全体が活性化し、若者が住んでみたいと思えるまちづくりを進めてまいります。</p>
3	古くなった設備の危険性や、避難場所の老朽化の早期解消の為に、10年かけて改修するより規模を縮小して建て替える方が良いと思う。費用削減も大事だが、今後の災害のことを考えると安心できる新しい施設の方が良いと思う。	<p>●令和4年に改訂した「延岡市公共施設維持管理計画」において、延岡総合文化センターは、芸術文化の更なる振興のため、県北地域における芸術文化の拠点として各種サービスの充実を目指した維持管理や、ユニバーサルデザインに配慮した機能向上の検討を行いつつ、適切な維持管理を行いながら使用し続ける方針が示されています。</p> <p>また、鉄筋コンクリート造の建物の一般的な耐用年数とされている60年で建て替えを行う場合と比較して、長寿命化工事を行う方が、今後40年間の維持管理コストを38億4千万円削減できる見通しとなっていることから、安全対策のための現行法令に基づく大規模な改修工事等を計画的に実施し、トータルのコストを抑えながら大規模災害にも対応できる施設の整備を行いたいと考えております。</p>
4	現在の延岡総合文化センターの場所は交通の便が悪いので、県体育館付近に建設するほうが良いと思う。	<p>●県体育館周辺は、農地法に基づく制限があることから新たな施設を整備できる用地がないため、現状においては施設整備は難しいと考えております。</p> <p>なお、文化センターには多くの駐車場が整備されているほかにも、民間のバスやまちなか巡回バスの停留所もありますので、これらの交通手段をご利用いただき、施設にお越しいただきたいと考えております。</p>
5	施設内での催し中に地震が起こったときに、避難において混雑しないように、新たな通路や非常用出口を確保して欲しい。	<p>●施設内の避難通路につきましては、法令に基づき、適切に確保しております。</p> <p>また、避難誘導につきましても、施設の管理者が定期的に避難訓練を行い、また、実際に観客がいる状況で避難訓練を実施する避難体験防災イベントの開催により、万一の場合でも適切に対応できるよう備えており、来場者の皆様が安心して施設を利用できる体制をとっております。</p>